

校長室から

令和2年7月27日

想いをこめて

そして 思いよ 届け

学校が再開して2ヶ月が経過しようとしています、早いもので、来週からは夏季休業となります。今年度は、コロナ禍によって、様々な教育活動に影響があり、何より生徒達の活動が制限されてしまっている事に関しまして、心苦しく感じています。

しかしながら、本校の生徒達は、この事態の中でも自分達の力を発揮したり、思いやりのある行動を示してくれたり、とても前向きに頑張っている事が感じられます。

3年生の生徒達は、最後の交流試合や部活単位のお別れ会、最終コンサート等のために練習や訓練を繰り返し、それぞれが納得できるような終わり方を模索し、けじめをつけようとしています。この4連休期間(7月23日～26日)で、活動を終了した生徒達も多くいます。

すべての部活動の試合や演技会を参観することはできませんでしたが、本校だけではなく、各学校の生徒達の活動に触れ、顧問の先生方、そして保護者の皆様と実際にお話しながら感じる事が多くありました。

新体操の演技会では、団体の演技が終了した直後に、生徒一人一人に顧問の先生から手作りの賞状が手渡されました。ある学校の顧問の先生は、感極まって涙しながら生徒に賞状を渡し、生徒達も涙しながら受け取っていました。後で顧問の先生に聞いてみると「せっかく目標を決めて頑張ってきたのに、中総体が中止になってしまって、申し訳なく思ったり、2年半の彼女達の頑張りが頭を過ぎったりして、堪えきれませんでした。」 気持ちがよく分かります。

そしてその後、先生方全員で観戦席から退場していく保護者の方々の席を消毒したり、椅子を並べ変えたりと、演技会の成功のために尽力されていました。

また、陸上の記録会では、感染症のリスクを極力下げようと、先生方が全員で、ハードルを準備したり、会場整備を行ったりと、生徒達のために必死に動き回っている姿に出会いました。

どの会場に行っても、顧問の先生方が一致団結して、ガイドラインを遵守しながら、生徒達のために工夫して取り組んでいる姿がありました。

そのような中で、保護者の方々もやはり、生徒達のために社会的距離を取りながら観戦、応援し顧問の先生方と連携しながら、とても生徒達に気を配ってくれている姿を見て、とても有り難く感じました。

保護者の方々ともお話しする機会があり、特に3年生の保護者の方々は「大会が中止だったのに、このような機会をいただき、本当に嬉しく思います。」「顧問の先生方には感謝の気持ちしかありません。ここまで子供たちを成長させていただき、大会がなくても満足しています。」また、我が子が大会に出場できなくても「新人大会は開催できるといいですね。」と、どの会場に行ってもとても温かいお声掛けをいただきました。中学校入学以来、最上級生として臨む中総体やコンクール、発表会等を夢見て、ここまで応援してくださっていた保護者の皆様には、無念さを心に留め、私達に気を配っていただき、本当に申し訳ない気持ちになります。同時に温かく、そしてどの学校よりも熱い応援を生徒達に送ってくださっていたお姿を拝見いたしまして、本当に感謝の気持ちしかありません。

3年生のみならず、1、2年生の保護者の方々にもご協力いただいている姿を各会場で拝見いたし

ました。是非、新人大会は開催され、その後の大会やコンクール等も、この時期実施している代替大会等の運営を参考にしながら、開催されることを期待し、皆様と一緒に喜び、涙し、笑顔になりたいと思っております。

一方、生徒達は、目指していた大会が中止になっても、上位大会が中止になっても、笑顔を見せ、そして一生懸命にプレーし、演技していました。「この4連休で引退」という生徒も多くいました。自分自身に取り組んできた部活動に対して、ひとつのけじめをつけるような、そして自分自身に取り組んできた事が「正しかったんだ。」と確認しているようなとても真摯な姿に心打たれました。

実際に、試合会場で最後の試合、最後のプレーで、本校の女子生徒が自己記録を更新した姿も見ました。「頑張ってきてよかった」と嬉しく思いました。

本校の体育館で、ある部活動の試合を観戦しました。こんな素晴らしい試合は、今まで見た事がなかったと思われるような、貴重な試合を見せていただきました。最初からずっと競りあい、そして最後は劇的な勝利で終了しました。保護者の方々もとても喜ばれていました。次の試合はもうありません。大会に優勝したわけでもありません。それでも自分達の持っている力を最大限に発揮しようと懸命にプレーしている姿を見て、「どうして、こんなに頑張れるのだろう。このモチベーションはどこからくるのだろう」と、本当に感激しました。

まだ、これから8月~9月まで続く運動部、文化部の活動があります。どうか自分達の取り組んできた事は正しかったと確認できるような証を残してください。

日本全国の中学生、高校生、大学生がそれぞれの大会等を失い、現在は、さかんに代替大会が実施されています。そのような中、岐阜県の野球の名門校で、コロナ感染者が出てしまい、代替大会に参加できなくなってしまったそうです。感染する可能性は誰にでもありますし、誰のせいでもありません。本当に悔しいと思います。この学校は、春の選抜大会の代替大会として行われる8月の甲子園の交流試合には参加できるとの事です。是非、皆さんで力を合わせて思い切りプレーしてほしいですね。

このような事態になってから、半年が経過しようとしています。そんななか、各校の顧問の先生方は、情報交換し、連携し、環境整備して、生徒を迎えてくれていました。

新体操会場で見えた事が忘れられません。責任者の先生が、私を呼び止め、「校長先生、一人一人に賞状を準備しました。これを各学校の顧問の先生から生徒に渡してもらうことにしました。」とても素晴らしい事だなあと感じました。その賞状は和紙で作成され、「エレガント賞」という名称でした。先生方の心配りに感激しました。大会に勝つ事も大切かもしれませんが、より上位の大会に勝ち残る事も大切かもしれません。しかし、そのような事だけで顧問の先生方は部活動の指導をしているわけではないと強く感じました。

そして、保護者の方々には、感染者を出さないように細心の注意を払い、生徒達がどうしたら全力で活動できるのかを考えながら、ご協力くださっていました。生徒達は大人達のこのような姿に接し、きっとなんらかの感情を抱いてくれているのではないのでしょうか。

私達には理解できない悔しい気持ちもあるでしょう。まだまだ心が整理できていない生徒もいると思います。それでも、自分達がここまで頑張ってきた事に誇りを持って前を向いてほしいと思います。そして各学校の顧問の先生方や保護者の方々が一生懸命に環境整備をして機会を設けてくれた事を心に刻んでほしいと思います。令和2年の夏は、「悔しかったけど・・・」是非、それに続く言葉を後輩や友人や次の世代に語って聞かせてほしいと思います。

まだ活動が続けている3年生もおりますが、保護者の皆様のご協力、ご支援、そして各学校の顧問の先生方に心より感謝申し上げます。コロナ禍においても、人間の繋がりはとても大切だなあと再認識した4日間となりました。

